

6月28日(火)

知恵の言葉

聖書朗読 箴言2章

あなたがたの中に、知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなく与えてくださる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。

ヤコブ1:5

「オズの魔法使い」の話を知っていますか。ある日ドロシーは巨大な竜巻に巻き込まれ、オズの国に飛ばされてしまいます。ドロシーは自分のうちに帰る方法を知っているかもしれないエメラルドの都にいる大魔法使いのオズを探しに行きます。エメラルドに向かう途中、ドロシーは道を歩いていて脳みそのないカカシ、心がないブリキの人や勇気のないライオンと出会います。カカシは脳みそを貰いに、ブリキは、心を貰いに、ライオンは勇気を貰いに、ドロシーと魔法使いを探しに出かけました。オズの魔法使いに出会い、自分たちの欲しい物を伝えると、魔法使いは一つの条件を出します。「西の悪い魔女を探し出しやつける」というのです。ドロシーたちは、自分の願いをかなえるために、しぶしぶ「西の悪い魔女」をやっつけに行きます。西の魔女を探し出し、脳みそを振り絞って戦うカカシ、大切な仲間を思いやりながら戦うブリキ、勇気を振り絞り果敢に闘ったライオン、それぞれの活躍で「西の悪い魔女」を倒しました。それから、「オズの魔法使い」に会いに行きます。しかし、その人は、「魔法使い」どころか、魔法など使えないただの人だったということがわかります。しかし、その人は、カカシ、ブリキ、ライオンにそれぞれが欲しがっていたものは、もうそれぞれが手にしているんだということを気付かせてくれます。その三人になかったのは、それを持っていると思える自信でした。しかし、西の魔女をやっつけることで、それぞれに足りないと思ったところは実はそれぞれが持っていて、魔女を倒すために闘うことでそのことを証明したのです。

人生の問題に直面した時、私たちは「すべてにすぐ答えを求める」ということを願ってしまいます。誰かに答えを教えてもらいたいのです。しかし、知恵を使って生きることが大事です。真の知恵は神様由来のもので、明らかにされた神様の言葉とキリストの説き明かしが私たちの知恵です。祈りを持って知識と啓示を理解することにより、神様がくださる知恵に導いてくださるのです。

讃美歌293

祈り 親愛なる父よ。あなたの導きが必要です。あなたのみこころを求めるとき、知識と知恵を与え理解することができますように。

イエス様のお名前によってお祈りをお捧げいたします。アーメン。

ケイサ・ウィンサー

6月29日(水)

一歩踏み出す前に注意する

聖書朗読 箴言14:15~20

熟慮ある人は行く道を見分けようとする。 箴言14:15 (新共同訳)

飛行機を降りる時、飛行機とゲートを繋ぐ長い廊下のような所には段差がある時があります。客室乗務員は挨拶とともに「お足元にご注意ください」と言ってくれます。それでも、躓(つまず)いてしまう人もいますが、ほとんどの人は足元を見て注意深く降ります。一旦立ち止まること、あせらず、余裕をもって行動することはどんなときでも大事です。

思慮深い人は、目をつむって前に進むことはしないで、次にすることを考えてから行動します。思慮深い人はビジネスを始める前に、市場や地域や必要になるものを調査します。思慮深い人たちは結婚する前に、いい関係を築くことや親になった時の事や仕事の事やお互いの関心事について話し合います。一歩踏み出す前に考えるのです。

しかしながら、愚かな人は踏み出す前に何も考えず、注意喚起の呼びかけも見落としてしまいます。何とかかなると思ってしまうのでしょうか。そして、失敗して戸惑います。そして、ひどい目に遭ってしまうのです。

私たちは、まず、主に祈り、一旦立ち止まり、思慮深く進む必要があります。そうすることで、みこころを為すことができます。

讃美歌 90

祈り 親愛なる主よ。私が急いで歩きたい時、ゆっくり歩かせてください。私が一歩一歩主にあつて、思慮深く歩めるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ロバート・P・ミュラン

6月30日 (木)

美しいこと

聖書朗読 伝道者の書 3:1~12

神のなさることは、すべて時にかなって美しい。 伝道者の書 3:11

インターネットのキリスト教関係のサイトでは「神のなさることは、すべて時にか

なあって美しい」という聖句が書かれた商品が非常に多く販売されています。私もこの聖句が好きです。「すべてのことには定まった時期があり」で始まる様々な「時」を並べた文章の最後に書かれているのがこの聖句です。「あらゆることには、ふさわしい時」と訳してある聖書もあります。

「美しさ」と「ふさわしい時」との共通点は何でしょうか。「時」を並べた文章をみてください。くずすのに時があり、やり直すのに時があり、黙っているのに時があり、口を開くのに時があるということです。全てに時があるのです。

すべてには時があります。そして、その時を定めるのは神です。私たちは、この世において神がなさることをはじめからおわりまで見届けることはできません。神様のご計画の背後にある理由も分かりません。しかし、神は私たちに永遠と言う世界をお与え下さいました(伝道者の書3:11)。その永遠という世界があることを覚えて、今の生活の中で、ただ神を畏れ、全ての労苦の中にしあわせを見いだして歩いていくこと、その日々の生活こそが時にかなって美しいことであると伝道者の書は教えてくれているのではないのでしょうか。不平不満を言うのではなく、前向きに歩いていきたいものです。

讃美歌 21 17 聖なる主の美しさと

祈り 親愛なる主よ。私たちがどういう季節にしようとも、神様が私たちに与ってのベストをご存知だと信頼する信仰を与えてください。生きていく中でその時、その時にふさわしい行動が取れるように導いてください。あなたのみもとの天国に導いてください。

イエス様のお名前によってお祈りいたします。アーメン。

メリー・エステス

7月1日 (金)

元気を出して

聖書朗読 伝道者の書 11:1~6

わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ちました。 ヨハネ 16:33

イエス様は嵐の真っ只中の平和そのものです。イエス様は船の錨です。私たちの岩です。私たちの避け所です。私たちの中に神のみ言葉があり、信仰で満ちています。堂々とそれを宣言し、恐れる思いに包まれて怯える事のないようにしましょう。

エペソ 6章に書かれている神の武具には後ろ側を守るものが含まれていないことに気が付いていましたか。これは、恐れて後ろを振り返って逃げたりせず、神への信頼を持って勇敢に敵に向かっていくという意味です。私たちは、私たちを決して失敗させないイエス・キリストという土台の上に立っています。キリストにある兄弟姉妹と一緒に立っていてくれます。彼らは私たちの後ろを見張ってサポートしてくれています。

これが福音です。これが私たちが元気になれる理由です。

使徒パウロは、海難事故にあったのにも関わらず 神様を信じるのをやめませんでした。あなたの置かれている状況は簡単なものではないかもしれませんが、気を取り直して元気を出してください。神様を信じてください！神様は生きていますと信じてください！

旅の途中のパウロは100%の自信を持ってこう言いました。「ですから、皆さん、元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりにになると、私は神によって信じています。」(使徒 27:25) 私たちも同じことが言えるのです。

讃美歌 鹿のように

祈り 慕いまつる主よ。イエス様をそして福音をありがとうございます。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジョアン・クレイトン

7月2日(土)

誰かを神様に近づかせる

聖書朗読 イザヤ書6：1～7

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、神であられる主、万軍の支配者。昔いまし、今いまし、後に来られる方。」
黙示録4：8

スペースシャトルは夜明け頃に発射されることが多く、発射の日の早朝にケネディー・スペース・センター脇の道路を運転すると特別な時間を感じます。スペースセンターの湿地の暗闇に、異世界の証人のようにキセノン光を発し輝いているシャトルが発射台に鎮座しているのが見えます。こういう光景を目にするだけで、宇宙や宇宙旅行への畏敬の念が起きます！わたしは、神様を礼拝し、シャトル関係者のために祈りたい気持ちに駆られました。

イザヤは御座についておられた神を見たことで、礼拝と畏敬の念をより強く感じるようになりました。イザヤの見たセラフィムは、力強く立派な形をしていました。6つの翼があり、飛んでおり、敷居の基が揺れるような声で、燃え盛る炭を手に持ち、燃えるような外観であったと思います。しかし、目を留めるのはそこではないのです。セラフィムは、神の御座で仕えるものとして謙遜さを持って自分の顔を覆い、畏敬の念を持って足を覆い、彼らの声はイザヤの注意を神様の方に向けさせました。自分の方にはありません。この幻は、イザヤが主に仕える生き方をするという神様への約束で終わります。

この次、どのように神様にお仕えるのか、どのように熱心に礼拝するのかに焦点を当てたいと思った時、自分の持てる全てのもを神様だけのために捧げた神秘的で素晴らしいセラフィムのことを思い出しましょう。

讃美歌 312

祈り 私たちの天の父よ。あなたの神聖さをほめたたえます。私たちはあなた様の威厳に驚嘆します。あなた様とイエス様に誰かを近づけることを目的に、イエス様のご性質を表現することができますように助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

マイケル・A・オニール

7月3日(日)

悲劇と忍耐

聖書朗読 イザヤ書40：6～8

わたしが目を留める者は、へりくだって心砕かれ、わたしのことばにおののく者だ。
イザヤ書66：2

印刷やデジタル保存が存在する前は、聖書の文字は手で書き写されていました。聖書を複製するには集中力が必要なので、信仰者は希少な写本を注意深く扱いました。

手で書き写されたノアやアブラハムやヨセフの話がルツのラブストーリーやエリコ陥落を語るヨシュアの脇に安全に保管されているところを想像して見てください。素晴らしい光景ではありませんか。イスラエル王国の陥落の日まで、おそらくこの貴重な写本はイスラエルに置かれていたと思われます。安全に守られたエルサレムの神殿は、安全な保管場所だったに違いありません。

ここで、ある時に、悲劇が起きました。バビロン人が侵入し、エルサレムを打ち負かし、神殿を焼き払い、イスラエル文化を破壊し、指導者たちを国外に追い出しました。エルサレム神殿にあった古代の聖書の写本はどうなったのでしょうか。写本は全て焼き尽くされてしまったと結論を付けがちです。

しかし、時が経ち、預言者イザヤはエルサレム崩壊後に何が起こるのかを語りました。人間や人間の作ったものは花のように現れ花のように消えるが、「私たちの神の言葉は永遠に立つ。」(イザヤ書40：8) 何と写本は残りました！イスラエル王国の遺跡はほとんど残っていませんが、何百万人という人が創世記やルツ記やもちろんイザヤ書を抱えて日曜日ごとに今でも教会に行っています。神の言葉は、永遠に立つ！

讃美歌 284

祈り 親愛なる神様。人間に神様のみことばをくださり、私たち一人ひとりのためにそれを守ってくださいまして、ありがとうございます。

イエス様のお名前によってお祈りいたします。アーメン。

ハロルド・シャンク